

Hidaka

位置・面積

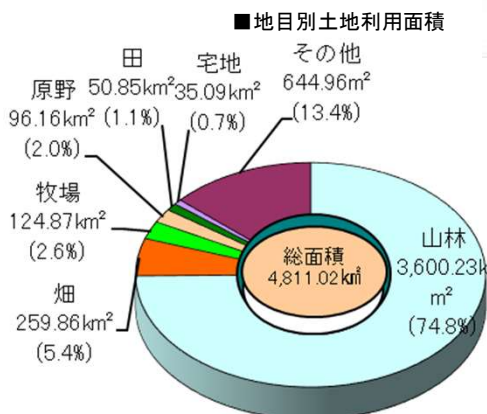
日高管内は、本道の中央南西部に位置し、南北に連なる日高山脈とほぼそれに並行して走る海岸線に狭まれ長方形に広がっております。

北東は日高山脈を境に上川・十勝地方に、北西は胆振地方にそれぞれ接しており、南は太平洋に面しています。

面積は、4,811.02km²で、北海道の全面積の5.8%を占めており、14総合振興局・振興局中第7位の広さを有しています。

これは、和歌山県や福岡県にほぼ匹敵する広さとなっています。

面積の8割近くが山林で占められており、豊富な森林資源に恵まれています。平野部は少ないため、全道に比べ、宅地や耕地面積の割合は低くなっています。



(総面積は国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積」令和6年10月1日現在)
(地目別面積は総務省自治税務局「固定資産の価格等概要調書」令和5年1月1日現在)



襟裳岬

人口

日高管内の人口は、令和2年国勢調査において63,372人(全道比1.2%)で、昭和35年をピークに漸減し、平成27年国勢調査時から5年間で5,643人減少しています。

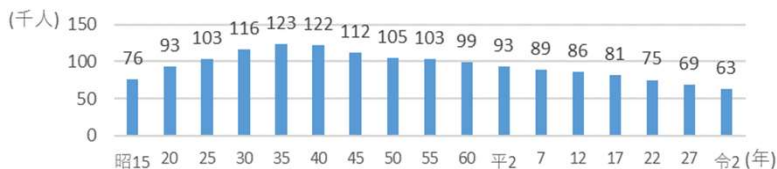
年齢別人口構成比をみると、生産年齢人口の減少が目立っており、管内においても少子・高齢化が進行しています。

また、産業別就業者割合は、農業・林業・漁業が該当する第1次産業、製造業・建設業・鉱業が当てはまる第2次産業以外の業種を対象とする第3次産業の割合が高い構造となっており、大きな変化は見られません。

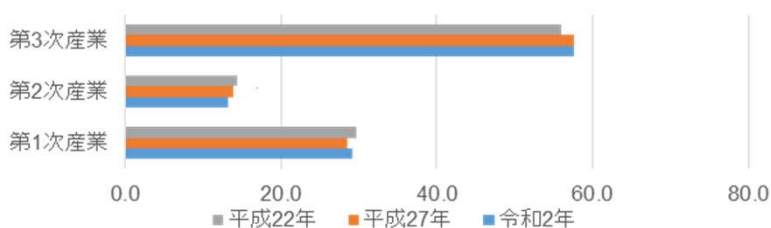


新ひだか町静内市街地夜景

■人口の推移(R2年国勢調査)



産業別就業者割合(国勢調査)



年齢別人口構成比(国勢調査)

| | | 15歳未満 | 15~64歳 | 65歳以上 |
|----|-------|-------|--------|-------|
| 日高 | 令和2年 | 11.0 | 53.7 | 35.3 |
| | 平成27年 | 12.0 | 56.5 | 31.5 |
| | 平成22年 | 12.7 | 60.1 | 27.2 |
| 全道 | 令和2年 | 10.7 | 57.2 | 32.1 |
| | 平成27年 | 11.4 | 59.6 | 29.1 |
| | 平成22年 | 12.0 | 63.3 | 24.7 |

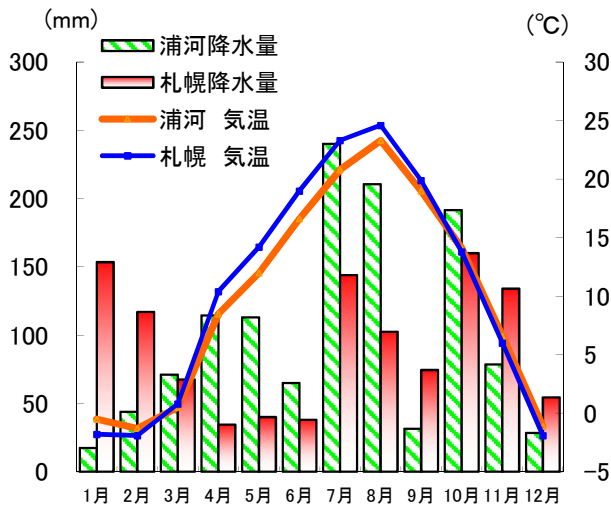
気象

日高管内の気候は、積雪寒冷地帯である本道にあって、比較的温暖で積雪量も少なくなっていますが、太平洋に面する沿岸地域と内陸部では、差異がみられます。

沿岸地域では、海洋性気候を示し、四季及び昼夜の変化は比較的少なく、降雪量も少ないが、降水量は、やや多くなっています。

一方、内陸部では、大陸性気候の傾向を示し、気温の変化が大きく、降雪量も多くなっています。

■月別の平均気温と降水量(2024年)



アポイ岳

■主な気象の指標(2024年)

| 区分 | 気温(°C) | | | 年間降水量(mm) | 年間降雪量(cm) | 風速(m/s) | | | 日照時間(h) |
|------|--------|--------|--------|-----------|-----------|---------|------|------|---------|
| | 平均 | 最高(極値) | 最低(極値) | | | 平均 | 最大 | 最大瞬間 | |
| 札幌 | 10.5 | 34.7 | -10.6 | 1,120.0 | 459 | 3.4 | 14.4 | 25.3 | 1,919.5 |
| 日高 | 8.0 | 33.7 | -19.5 | 1,360.5 | 352 | 1.7 | 8.1 | 20.2 | 1,738.5 |
| 浦河 | 9.9 | 31.0 | -10.6 | 1,205.5 | 102 | 3.8 | 18.0 | 25.2 | 2,154.7 |
| えりも岬 | 9.1 | 26.1 | -8.9 | 961.0 | - | 8.1 | 31.5 | 41.7 | 2,144.4 |

注:「-」は観測をしていない。
日高:旧日高町の地区。

(気象庁HP気象統計情報より)

自然

雄大な自然に恵まれた管内は、その大部分を北海道の背骨といわれる日高山脈に覆われています。

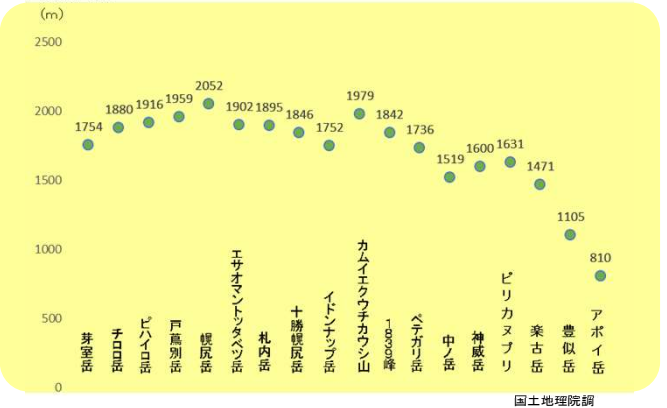
日高山脈は、最高峰の幌尻岳をはじめ、30あまりの山が南北約140kmに連なり、氷河の痕跡「カール」や稜線が鋭く切れ込んだ「ナイフリッジ」などの地形がその特徴です。

陸域としては我が国最大の国立公園である「日高山脈襟裳十勝国立公園」は、日高山脈、アポイ岳周辺、広尾～襟裳岬の海岸線一帯から構成され、優れた景観を有し、ヒグマやエゾシカ、ゼニガタアザラシなどの野生動物も多く生息しています。

また、アポイ岳は高山植物の宝庫と言われ、地元住民による熱心な保全活動が行われています。

平野部には牧場が広がり、優駿が草をはむ牧歌的風景がみられ、観光資源のひとつにもなっています。

■主な山岳



国土地理院調

「日高山脈襟裳十勝国立公園」誕生

令和6年(2024年)6月25日に日高山脈襟裳十勝国立公園が指定されました。

国内では35か所目、道内では7か所目の国立公園となり、道内での新たな国立公園の指定は、昭和62年の釧路湿原国立公園の指定以来、37年ぶりとなります。

本国立公園は、南北約140kmに及ぶ脊梁山脈であり、氷河地形、高山植生及び我が国最大の原生流域を擁する日高山脈から、裾野の森林地域を通じて、切り立った海食崖や海成段丘が特徴的な海岸地域までつながる広大な国立公園です。

地殻変動を受けて形成された山脈が、内陸部から海まで延々と連なる雄大さと、その山脈が原生的な自然状態を保ったまま存在する点において我が国を代表するに足る傑出した自然の風景地です。

